

洞林寺護持会会報

錦 糴

令和六年新年号(通算165号)



南天は、古くから、「難を転ずる」の語呂から魔除けの力が有り、縁起のいいものとされ、お正月の飾りとして重宝されております。

謹賀改歳

令和六年 甲辰歳元旦

御尊家御一同様の

御清祥と御多幸を祈り、

謹んで新年の

ご挨拶を申し上げます

錦柳山洞林寺 住職

吉田俊英

相承 仏の教えを受け継いでいく

— 瑩山禪師七百回大遠忌予修法要 —

住職 吉田俊英

1、總持寺での大遠忌法要

十一月二十八日、曹洞宗宮城県第二教区主催の団体参拝旅行で大本山總持寺に参拝

して参りました。参拝団の参加者は、教区の住職と副住職が十七名、檀信徒三十七名、総勢五十四名でした。洞林寺からは護持会副会長の横田俊明さんと護持会役員の黒川利博さんにご参加いただきました。

大本山總持寺に団体バスで到着し、檀信徒の方々は本山内を修行僧に案内されて拝観して本堂である大祖堂へ。我々僧侶は法衣に着替え、大祖堂の東側に立ち並び、参拝団の檀信徒は須弥壇に向かって正面の八尺間に座ります。殿鐘が鳴り始め、總持寺の役寮と修行僧約五十人が入ってきて大祖堂の中央大間に並びます。そして、焼香師、第二教区長大林寺御住職が本山役寮に先導され上殿して、太祖瑩山禪師七百回大遠忌予修法要法要が始まります。

焼香師は初めに太祖瑩山禪師の遺徳を讃える法語を読み上げます。

光を伝え 徳を弘むる諸嶽山

大祖堂裏 報恩の筵

法灯七百 忌景を迎え

心香一片 真前に拝す

法語の意味を意識し補足しますと、

「瑩山禪師様が提唱録『伝光録』で述べら



太祖瑩山禪師に御茶を献じる

れているように、お釈迦様の教えが祖師方に伝えられ、瑩山禪師様が更にお弟子様たちに伝えて、そして我々にも伝えて来られました。また瑩山禪師様は貴賤を問わず多くの人々の心に寄り添い、徳を弘めて来られました。それが、ここ諸嶽山總持寺という道場です。今ここ總持寺大祖堂で報恩のための法要を勤めさせていただきます。瑩山禪師の法灯を今に伝え、七百回忌という大きな節目を迎えております。心を込めて

御香を焚き、謹んで瑩山禪師様にお拝させて戴きます。」

焼香師は法語を唱え終わると、須弥壇前しゆみだんに進み、太祖瑩山禪師様に蜜湯、菓子、御茶を御香に薫じ、瑩山禪師様の御真前にお供えいたします。

献供が終わり、読経が始まります。第二教区参拝団一同、本山役寮の案内で前に進



能登の總持寺祖院「峨山道」入口

み、太祖瑩山禪師様にお焼香させていただきました。続いて参拝団の先祖代々を供養する総読経をお勤めしていただき、御先祖にも焼香させていただきました。法要終了後、大祖堂前で記念写真を撮り、總持寺を辞しました。

2、大悲真読と二祖峨山禪師

總持寺では毎日の朝課の御両尊諷経や歴代禪師様の正當法要の際に、大悲心陀羅尼だいひんしんだらにを読経します。この度の大遠忌法要でも大悲心陀羅尼をお唱えしました。總持寺では、大悲真読と言って非常に非常にゆつくりと唱えます。

瑩山禪師様が亡きあと、峨山がさん禪師様が總持寺二祖となりました。峨山禪師様は瑩山禪師様終焉の地である羽咋の永光寺の住職を兼務していた時期がありました。どちらも瑩山禪師が開かれた大事なお寺です。峨山禪師様は毎朝未明に羽咋・永光寺の朝課を勤めてから、能登半島を南北に貫く十三里の道（峨山道）を走り抜け、能登・總持寺の朝課に駆けつけたと言われております。日々、師匠瑩山禪師様ための報恩の行を繰り返されたのでした。能登總持寺では峨山禪師の到着を待ったため、大悲心陀羅尼

をゆつくりゆつくりと読むようになったと言われております。その伝統が大悲真読という形で今日に受け継がれています。

3、相承―「両箇の月」という逸話―

大本山總持寺では、大遠忌のテーマを「相承」としております。相承とは、師匠から弟子へ正しい仏の教えを伝え、途絶えることなく次の弟子たちへ伝えていくことです。釈尊からわった正伝の仏法は、インド、中国と嫡々相承して大本山永平寺開祖道元禪師様そして大本山總持寺開山瑩山禪師様に至り、瑩山門下のお弟子様たちが全国へと教えを広め、寺院が建立され、日本の寺院数を誇る曹洞宗となりました。

瑩山禪師様が弟子峨山禪師様を指導された時の「両箇の月」という逸話があります。若き日の峨山詔碩禪師は瑩山禪師の徳望を伝え聞き弟子入りし加賀大乘寺で修行に励まれました。或る時、瑩山禪師が「月が二つあることを知っているか」と峨山禪師に問われました。しかし峨山禪師は意味が分からず、その答えを求め修行に没頭する日々を過ごしました。ある日、月夜の坐禅中、近くに來た瑩山禪師の弾指した音により大悟されました。



「二つの月」とは、天上に輝く月と、自ら宿している月のことです。天上に輝く月は、仏法そのものを指します。そして、私たち一人一人にも、月（仏法）が宿っているのです。仏様の教えを象徴する「月」は、外側から常にその光を私たちに注いでくれています。その教えをいただく私たちは、言葉や文字を通じてそれをわかったつもりになっていくようですが、それは仏様の示された教えそのものではありません。自分の外側に見えている月、それは実のところ月を指し示す指でしかないのです。私たちが仏様の教えを受け止めて自分のものとし、自らの生き方や生活の中に活かすことが出来て初めてその教えは本物の「月」となるのです。

「仏様の教えを受け止め、実践する私たち一人一人にも同じ月が宿っているのだ。」と瑩山禪師は峨山禪師にお伝えになられたのです。そして、峨山禪師に伝えられた教えを受け継いで、我々もすっかり学び修行していく。それが、大遠忌のテーマである「相承」なのです。

お檀家の皆様の御先祖は御戒名を受けて仏弟子となっております。皆、道元禪師様瑩山禪師様の門下生です。皆様もいづれ門下生になります。正伝の仏法を学び、次世代に相承してまいります。

太祖瑩山紹瑾禪師

七百回大遠忌

— 大本山總持寺参拝団参加して —

副会長 横田 俊明

昨年十一月二十八日から十一月三十日まで三日間にわたり、曹洞宗宮城県第二教区主催の参拝旅行に参加いたしました。今回の参拝団には、第二教区各寺院の住職、副住職、寺族、檀信徒など五十四名の方々が参加されました。旅行の要点をご報告させていただきます。



曹洞宗大本山總持寺 宮城県第二教区主催本山参拝団 令和5年11月28日

1、太祖瑩山紹瑾禪師七百回大遠忌法要
 大本山總持寺太祖堂において、参拝団の団長の第二教区教区長田村孝順様（大林寺御住職）が導師を勤められ、執り行われしました。荘厳な太祖堂に読経が響きわたったり厳粛な雰囲気でお焼香させていただきました。

2、東京湾周遊・屋形船での直会

品川から屋形船に乗り東京湾へ。名物の天婦羅料理を味わいながら夜景を楽しみました。

3、東京タワー見学

最近西側に三百米を超える日本一の超高層ビルが建設された事もあり、人気は復活。

4、浅草・浅草寺

インバウンドの客でもの凄い混雑、団体の列から離れたら迷子は必定、しつかり就いて行くのがせい一杯、お土産どころではありませんでした。

5、皇居外苑での昼食

楠木正成前レストランで昼食。なぜ皇居前に楠木正成公の銅像があるのだろうかと思われる方はスマホで検索されてみては：

6、鬼怒川温泉 ホテル三日月で懇親会

第二教区護持会挙げての旅行会は久々とあってお互いに情報を交換し合って、懇親会はとて有意義なものでした。懇親会の最後に第二教区護持会副会長である洞林寺御住職よりご挨拶がありました。

「我々僧侶はお釈迦様から道元禅師様そして瑩山禅師様の弟子にあたります。お檀家の皆様も必ず戒名を受けられ仏弟子となると思います。皆様もいづれ菩提寺から戒名を頂戴して瑩山禅師様に連なる仏弟子になります。今回の大遠忌団参で皆様の大師匠である瑩山禅師様をお参りさせていただきたいことの意義を心に刻み、これからの人生の柱として大事にしてください。」という趣旨の挨拶でした。

7、日光東照宮特別祈禱参拝

このお参りは団体にガイドさんが付き、館内の建造物の構造、彫り込まれた動物たちの謂われなどを丁寧に説明し、祈禱所でお願い、迎賓館で午餐をいただくものでした。



浅草の観音様の本堂前で

今回の旅行で大本山と我々檀信徒の繋がりをあらためて知ることが出来て、御先祖（将来は我々も）を祀っていたり、ご寺院様を大事にすることが檀信徒にとって大事なことであり、大変幸せなことであるということを感じた次第であります。

大本山總持寺を参拝して

黒川 利博

十一月二十八日から二泊三日でバス二台に乗り、大本山總持寺太祖瑩山禅師七百回大遠忌法要に宮城第二教区のご住職、檀信徒五十四名方々と参拝しました。

横浜市鶴見区の広大な敷地の中の総合受付に到着後修行僧の案内で中に入ると木彫りで日本一大きいといわれる高さ一・八メートルの大黒天がお祀りされていました。諸堂をつなぐ長さ百六十四メートルの長廊下は一日二回、修行僧による雑巾がけが行われているそうで廊下は見たことがないほどピカピカでした。

千畳の畳が敷き詰められた広大な本堂で、太祖瑩山禅師七百回大遠忌法要、そして先祖供養のお勤めをしていただきました。

た。昭和の大スター石原裕次郎さんのお墓、アントニオ猪木さんのお墓見学して、總持寺をあとにしました。夜は屋形船に乗り、お台場の夜景を見ながらの夕食でした。

二日目東京タワー見学、浅草見物皇居外苑で昼食の後、一路鬼怒川温泉へ向かいました。三日目は日光東照宮特別祈願参拝を済ませ一路仙台にかえってきました。

天候にも恵まれてとても素敵な三日間でした。平成二十六年に洞林寺主催の本山永平寺参拝旅行に参加しましたが、それ以来十年ぶりの本山参拝旅行に参加できたと、たいへんうれしく思います。ありがとうございます。



總持寺墓苑内の猪木家墓所
銅像は一周忌に建立されました。

第二教区護持会講演会報告

—お釈迦様成道の物語—

広報幹事 佐藤 泰 憲

去る十一月二十一日、仙台サンプラザに於いて、教区護持会が主催する講演会が、東北福祉大学の千葉公慈学長先生を講師にお招きし、「お釈迦様成道の物語」と題して開かれ、これに参加してきました。翌月の十二月八日が、お釈迦様のおさとりを開かれた「成道の日」に当たるため、教えを理解する心構えを勉強する機会でした。

約二千五百年前、インドのシャカ国の王子に生まれたお釈迦様は、裕福で幸せな生活を送っていましたが、丁度時代が、農業や物々交換から貨幣経済へと人間の価値観が変わる転換期だったので、周囲の人達が悩み、悲しみ、苦しむ様子に二十九歳の時、出家なさいました。それから六年間、様々な厳しい苦行の毎日を送り体力が衰えた時、村の娘、スジャータースジャータの捧げる食事にめぐり合い回復し、菩提樹のあるガヤーの街に至り、その根元に座り「人間の苦しみを救う知恵がわからないうちは決してこの場所を立たないぞ！」と決意しました。七



東北福祉大学 千葉公慈学長

日目の朝、夜明けとともに、心の中も次第に明るくなり、人間はどう生きるか、己の心をどう整えていくかなど、深い疑問も解けていきました。

断食の中、スジャーターのお粥にめぐりあい、「貴方の願いが、夢が叶いますように」「貴方にこそ」のやりとり。目覚めた天地、目覚めた私の心、今、仏になった、世界の夜明け心の夜明け、天地の動きが判

◎原稿募集

皆様のお便りをお待ちしております。

身近かなニュース、心境などどうぞ
お寄せ下さい。

る、人間の心が判る。釈迦は仏教の悪魔と
闘い、己の心の中にある誘惑という欲望に
打ち克つのでした。

「怨みは怨みを捨ててこそ、はじめて止
む。これ永遠の真理である」

「真実を語ることににより、偽りを語る人
に打ち克とうではないか。これこそが
本当の勝利」

「己の心をどう整えていくか」

「縁起 人間関係の成り立ち、真の人間

関係の機微」

「仏心とは大慈悲、これなり。無限のい
つくしみをもって、もろもろの象生を
撰す」

成道の日とは、お釈迦様の苦難を思い仏
教を開かれたことに感謝する日で、花まつ
り、涅槃会と並ぶ三大法要といわれていま
す。浅学で修行の足りない私には、先生の
話を追いかけるだけで四苦八苦でした。上
記の様に種々教え等を伺いましたが、お釈
迦様が悟られた言葉の数々を理解し日々の
営みに自分なりに取り入れるには、住職様
をはじめ、先輩諸兄妹の皆様の有様を勉強
することから始めなければならぬ、と痛

感させられました。この報告もただ、書き
連ねただけですが、教えを理解する心構え
の一步にしていきたいものです。

尚、千葉学長さんが紹介していました
が、今年東北福祉大学の創立百五十年に
なるそうで、卒業生の活躍もスポーツ界の
みならずですが、今年は野球日本一の阪神
のメンバーに中野選手がいたそうです。千
葉学長は各方面で講演や講師も努められ、
住職さんとも縁浅からぬそうです。

コロナ騒動を振り返って

護持会副会長 櫻 井 善 郎

新型コロナ騒動は中国の武漢市を発生源
として、日本国内でも令和二年一月から広
がり始め、二月二十九日には、仙台でも東
北最初の感染者が確認されました。

令和二年四月には一回目の緊急事態宣言
が出され、それに伴い、マスク着用、消毒
剤使用、三密（密閉・密集・密接）を避け
る等の指針が示され、「他県への移動の抑
制」「イベントの中止や延期」「教育現場で
の休校やオンライン授業」「職場でのテレ
ワーク奨励」「観光地のホテルや飲食店の
営業自粛要請」「店舗への販売時間短縮」

等々、これまで当たり前に行われていた行
事が覆されて出来なくなり、多方面で影響
がありました。

なかでも医療体制はひっ迫し困難を極め
ました。変異株の出現もあり、大きな波が
何度もありましたが、関係者の奮闘もあ
り、コロナ対応のワクチン開発・接種も進
み、令和五年五月には感染対策法が二類か
らインフルエンザ等と同じ五類に引き下げ
られ制限が緩和されました。

コロナに振り回された四年間でしたが、
皆様方の努力に感謝しつつ、新しい年を迎
えることが出来ました。これからも宜しく
お願い致します!!

洞林寺婦人会遠足

中 鉢 トシ子

洞林寺様の御好意で婦人会の為にと企画
して下さり、皆さんが前々から楽しみにし
ておりました遠足が九月二十九日にありま
した。

洞林寺に集合して本堂で本尊様にお焼香
参拝してから出発です。当日は九月末とい
うのに二十八度と暑く、雲一つない行楽日
和でした。



大徳寺の横山不動尊

仙台東インターから自動車道へ。猛暑のためか三陸道界隈の田園の稲刈りは早まり収穫が終わってました。津山インターあたりの森林は県内でも有名な杉林で、枝払いされ整然と並んで見事なこと。その下には刈取りが残っている稲穂が陽を浴びて黄金色に、また点在している家々の庭の赤黄ピントの花がきれいでした。

大徳寺の駐車場で降り、山門に行くと大徳寺の橋住職様が出迎えて下さいました。裏山は鬱蒼とした森で、立派な山門をくぐり境内へ。境内には十六の御堂・塔・石碑が祀られているそうです。不動堂前で手を合わせた後、橋住職様が不動堂の扉を開けて中に案内してくださいました。開けた途端、思わずワーと大きな声をあげてしま

ました。大きな尊像です。高さ四・八メートル。重さ三三〇キログラム。木造の不動明王です。右手に大きな剣、左に縄を持って堂々と鎮座していました。あまり重いで胎内から指先まで空洞になっており、胎内仏が納められていることでも有名です。横山不動尊の名前で広く知られ、千葉県の成田不動尊、新潟県新発田市の菅谷不動尊と並び、日本三不動の一つです。

大正十五年、付近の民家から出火し不動堂に燃え移り全焼したが、幸いにも不動尊は腰ひもを編んで縄掛けして近在の住民の手で持ち出され、災禍を免れた。東日本大震災で左腕が折れ、修理のため京都で二年半かかって修理し、東北歴史博物館に記念展示をして御堂に戻されたそうです。

青銅製の五重塔は珍しく、県の重要文化財に指定されています。中庭の池には天然記念物のウグイが群れをなして泳いでいました。湧き水のため冬でも凍らないのですが、カササギが来て食べてしまうので対策に苦慮しているそうです。

南三陸さんさん商店街で昼食をおいしく頂きました。平日の為か閑散としていて、店の方も「この頃ひまなんです。」と言っていました。



大徳寺の御住職から説明いただく

明治二十一年に建てられた登米高等尋常小学校の昭和四十八年まで使用された校舎が、教育資料館となっています。当時の教室がそのまま再現され、子供時代にタイムスリップしたようです。各時代の教科書・教材が展示されています。長い板張りの廊下、オルガン、学習机、子供達の着物、通信簿等々。校長室の校長先生のマネキンにはちよつとびつくりさせられ、印象に残りました。観光物産館遠山之里では油麩・はつと・だしの素などを各々買いました。

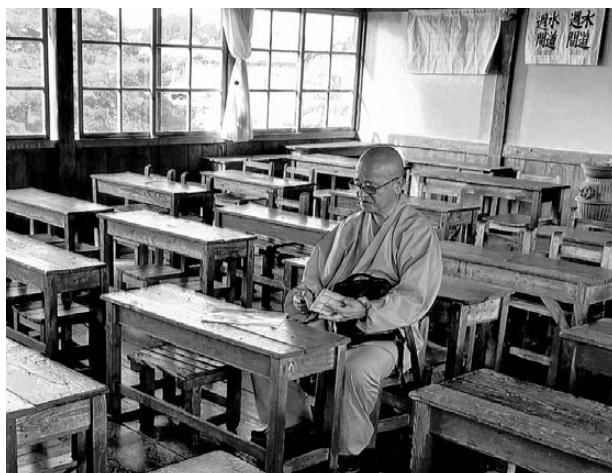
白壁で囲まれた古い武家屋敷春蘭亭。築四百年とか。座敷から西日に照らされゆるる銀色のススキそして苔むす日本庭園を眺めながら、抹茶や春蘭茶（春蘭の花を塩漬けにしたお茶）と和菓子をいただく。格別なおいしさでした。たまたま中秋の名月の日でしたので、店主からススキをプレゼントしていただき、帰路に着きました。

住職様から色々なお話を頂戴し、自然の美しさにふれ、心身共に豊かになり、実りの多い旅の一日でした。この遠足を企画し車で送迎して下さいました方丈様のおかげと本当に感謝申し上げます。ありがとうございます。

婦人会 秋の遠足に 行つて来ました

細目 章子

昨年に続いて第二弾は、三陸道津山インター近くの横山不動尊参拝でした。参拝後は、さんさん商店街で海鮮丼をいただき、「宮城の明治村」と呼ばれる旧登米高等尋常小学校を見学しました。木造二階建ての校舎に入ると、方丈様は懐かしそうに教室の椅子に座り、その姿がとても絵になりました。



教育資料館の「教室」

て思わず写真を撮らせていただきました。大徳寺のご住職が横山不動尊について色々説明してくださいました。

日本三大不動尊の一つで、平安時代に作られた四・八メートルの大きな木造不動明王像（国指定重要文化財）の胎内には小さな仏様が納められており、十二年に一度西の年に拝することが出来るのだそうです。六年後の二〇二九年に御開帳です。

境内には、立派な津山杉や県の重要文化財の青銅五重塔、池には天然記念物ウグイ

を見る事が出来ます。また機会があれば、参拝したいと思います。

洞林寺婦人会の遠足 第二弾

菅原 悦子

九月二十九日洞林寺の本堂にて本尊様にお焼香して参拝し、遠足に出掛けました。この日は朝から天気が良くて、まさに行楽日和でした。私たちの乗る車も真つ青な空の下を走って行きました。

登米市津山町の大徳寺横山不動尊に到着し山門をくぐり抜けて、不動堂へ。堂内には木造不動明王座像が鎮座されていました。不動堂は大正十五年三月五日火災により全焼しましたが、幸いにして尊像は運び出されて災禍を免れました。現在の御堂は昭和三年五月に再建されたものです。

薬師堂の池には天然記念物「ウグイ」が生息しています。ウグイに別れを告げ、横山不動尊を後にしました。

◇登米市みやぎの明治村 教育資料館

明治二十一年に建てられた明治の代表的な洋風学校建築物です。純木造の二階建て、南向きのコの字型をとり、一階二階と

もに吹き抜けの片廊下式となっていました。特徴的なのが二階バルコニーで、校舎全体の中心的な位置にあり、シンボリックな役割を果たしていました。廊下を歩いたら、私はふと自分が小学校の頃廊下で「おはじき」をして遊んでいたことを懐かしく思い出しました。



武家屋敷「春蘭亭」でティータイム

◇物産館遠山之里

小松菜と茗荷を買ってきました。

◇武家屋敷春蘭亭でお茶をしました

抹茶と和菓子、春蘭茶と和菓子を各々好みに選び、ティータイムを楽しみました。当日は中秋の名月の十五夜の日でしたので、庭に有るススキを頂いてきました。有難うございました。

楽しい一日だったことに感謝して、帰路に着きました。

懐かしの昭和の記憶シリーズ No.7

仙台駅前西口

仙石線乗り場連絡通路入口

伊藤 眞一郎

仙台駅西口地上一階から仙台駅の下を潜り東口の仙石線ホームに通じていた、この写真は昭和三〇年代初頭のもので西口第一ビル、現仙台パルコの駅寄りにあった、国電乗り場と五〇円ハウス（カレー屋）の看板に懐かしいと思われる仙台人も多いでしょう。

終戦後傷痍軍人が住み着きシヨンベン臭く（失礼！）、怪しげな雰囲気は漂っていた

た仙台駅名掛丁自由通路にも共通する雰囲気、薄暗くジメジメしてカビ臭く地下にあった五〇円カレーハウスのカレーの匂いと、床屋のクレゾール消毒液の匂いが入り、今では考えられない昭和の大衆感が漂っていた。

仙石線の前身は宮城電気鉄道で、大正十四年仙台〜西塩釜間が開業し昭和三年仙台〜石巻間全通し、昭和十五年国有化され国鉄に吸収された。この建物があつた頃は当時の面影が残っていた。



仙石線乗り場連絡通路のあった西口第一ビル

洞林寺終活講座 再開しました

— 相続と遺言書のお話を中心に —

秋彼岸法要終了後に「洞林寺終活講座」を開催してりましたが、新型コロナウイルス感染症防止のため三年間中止を余儀なくされました。九月二十三日、四年ぶりに終活講座を再開することが出来ました。

秋彼岸法要終了後、洞林寺の檀家でもある弁護士富澤秀行先生にお願いして、「相続の基礎知識—遺言書の作成を中心に—」という題で四十分ほどお話をさせていただきました。



相続について講義される富澤秀行先生

ました。

人其々家族親族の関係は異なりますし、保有する財産の状況も異なります。誰もが必ず遺産相続を経験しますが、其の内容は一人一人異なってきます。すべての人に共通するお話をすることは不可能ですが、今回は遺言書のことを中心に資料を準備して、お話ししていただきました。当日出席された皆様も、自分の財産に、そして子孫の財産に関わる事だけに、非常に真剣な表情で聴講しておられました。

遺言書が不要な場合もあります。しかし、一方で遺言書が無いため、後に残された方が困ることも有ります。遺言書が書いてあっても、その中身も大事です。無配慮な遺言書であったため、家族親族や関係者に迷惑をかける場合もあります。限られた財産であっても、うまくバトンタッチするには事前学習と事前準備が必要です。今回の終活講座がそのための一助となりますことを願っております。

当日の資料は住職と富澤先生と何度か協議して作成しました。富澤先生は資料作成のためにも多くの時間と智慧をご提供くださいました。心より感謝申し上げます。秋彼岸法要の供養を申込まれた方で当日来ら

洞林寺終活講座

相続の基礎知識

— 遺言状とその作成方法について —



令和5年9月23日 11:40~ 於: 洞林寺 本堂

講師 弁護士 富澤秀行 先生

事務所: 900-0011 仙台市青葉区一番町2-10-17 仙台一番町ビル11階
電話: 022-232-3400 FAX: 022-711-2021

p. 1

れなかった方々には「回向之證」と一緒に「終活講座資料」もお送りしました。

※今回の「終活講座資料」は若干残部があります。希望される方には贈呈いたします。但し、常時玄関口に置いておられますので、取りに来る際には事前に御連絡ください。取りに来られた際には、本堂の本尊様に手を合わせてお参りしましょう。

◎ありがとうございます

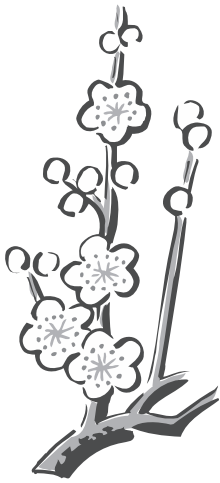
仏具料 金 十万円 齋藤 祥子様
徳照誠健居士供養のため

年 回 表

(令和六年)

一周忌	令和五年
三回忌	令和四年
七回忌	平成三十年
十三回忌	平成二十四年
十七回忌	平成二十年
二十三回忌	平成十四年
二十七回忌	平成十年
三十三回忌	平成四年
三十七回忌	昭和六十三年
五十回忌	昭和五十年
七十回忌	昭和三十年
百回忌	大正十四年

◎御法事をなさる場合、一ヶ月前にはお申し込み下さるよう、お願い申し上げます。



あ と が き

広報幹事 田 中 悟

優しく温厚なイメージから、家内安全、跳ねる姿から飛躍・向上の年と言われている「癸卯」年は皆様にとつてどんな年でしたか。

さて令和六年は「甲辰年」、「甲」は草木の成長を表し、「辰(龍)」は架空の動物であるが、古来中国では権力の象徴とされ、縁起の良い生き物とされている。

辰年、成長や龍の勢いからすると大きな変化が起こりそうな思いになる。

紐解けば、戊辰戦争、日露戦争が辰年に起きている。戦後五回しかない辰年のうちで三回も総選挙が行われていると記録もあり、ロッキード事件、リクルート事件と言った戦後最大の汚職事件等大きな政変が起きている。

更に辰の成長と勢いのある出来事としては、六十年前の昭和三十九年の「甲辰年」には、真っ青な空に歓喜の行進曲が流れた東京オリンピック開催、更には、夢の超特急が富士山を仰ぎながら駆け抜けた東海道新幹線の開通という象徴的な明るい出来事も忘れられない。

こうしてみると、二〇二四年の今年は、成長、勢い、結実の「甲辰」年、とてつもない大きな何かが起こりそうな想起を禁じ得ない。

私事ですが、昨年、三回入院した。入院のような出来事は初めてで、インパクトは特大であった。冠動脈血管等三か所の流れが悪くなり、細くなった箇所は動脈にステントという補助管を挿入し修繕した。このような出来事は、今年は起きないように願いたい。

願わくは、楽天イーグルスの優勝、ベガルタ仙台のJ1復帰である。

